

南洋材の性質

本試験をはじめるとあたって

わが国の木材需給にしめる外材の位置はとみに比重を増し、現在では木材総需要量の4分の1近くにも達している。なかでも輸入外材の55%を占める東南アジア産の熱帯広葉樹いわゆる南洋材は、その材質上国産材の補完的役割を果たしており、わが国の木材工業にとっては、将来とも重要な必需物資であるものとおもわれる。

南洋材と総称されるものの中には、きわめて多くの樹種が含まれるが、その主力をなすものは従来比島産のラワン材であった。しかし、最近比島におけるラワン資源はしだいに減少の一途をたどり、その伐採地も奥地化している。さらに比島国内における木材工業の設備増加もあって、輸出制限の方向に進展することが予想され、南洋材の供給事情はしだいに緊迫の度を加えてきた。これに対応してフィリピン以外の地域における森林の開発が種々計画され、その一部はすでに実際に輸入されるに至っている。この傾向は急速に強まり、南洋材の主要産地は比島から他の地域に移ることは時間の問題とさえ考えられるが、不幸にして比島産ラワン材以外の南洋材の材質については、ほとんど明らかにされたものがなく、海外文献も表面的に材質を記載したにとどまるものばかりである。これら雑多な未利用の樹種が漫然と輸入されるならば、国内の木材工業が混乱することはもとより、貴重な外貨を浪費し、消費者の失望をまねくだけでなく、南方木材資源の開発そのものが徒労に帰すことにもなりかねない。わが国における南洋材の役割は欧州におけるアフリカ材にみられるように切りはなすことのできないものであり、また南方の低開発国との貿易を振興するには、わが国が一次産品たる木材を買い付けることが最も好ましいこと、さらにはわが国の林業そのものが目を広く南方にむけ、総合的な森林資源の育成利用をはかる体制などにまで考え及ぶと、南洋材の需給体制の変化にそなえてこれら多種多様の南洋材の利用指針を確立しておくことがぜひ必要である。

従来、南洋材の材質に関係した研究はきわめて少数ではあるが無い訳ではなく、また当林業試験場においても若干の研究がおこなわれてきたが、そのほとんどが特定の樹種の特定の材質に関する断片的なものであり、系統的に研究を進めてきたものではない。われわれは、数多い南洋材の中から比較的蓄積も多く、伐出も可能で利用の可能性の大きい樹種を選定して、相当量の試験木に対して系統的な試験をおこない、各種の材質や材質相互の関係、現場で利用する場合の適応性、加工方式等の検討を加え、利用上の指針を与えるために本シリーズの研究をはじめることとした。

広範囲な試験なので短時日に大きい成果は得られないであろうが、われわれは各研究室共同で相当の努力を傾注して目的を貫徹するつもりである。この研究が木材界における南洋材利用に関する、技術上の指針を与えていくものとなるならばはなはだ幸いである。

試験はカンボジア産材、サラワク材がまず着手されたが引きつづきカリマンタン材、北ボルネオ材等が試験対象として予定されている。

カンボジア材については、カンボジア政府およびカンボジア開発株式会社の協力を得たし、カリマンタン材については、インドネシア政府、三浦社長はじめカリマンタン開発株式会社のご厚志によって試験材

が入手しうる見とおしである。その他住友林業株式会社、北新合板株式会社にもご協力をいただいた。今後さらに各方面のご協力を願う場合もあるであろうが、とりあえず特記してご厚志を深謝する次第である。

なお試験すべき項目としては、次のものを取り上げることとしている。

- a. 肉眼的構造、顕微鏡的構造、年輪幅等の組織的事項
- b. 比重、収縮率、吸湿性、吸水量、磨耗等の物理的性質
- c. 圧縮、引張り、剪断、静的曲げ、衝撃曲げ、かたさ等の強度的性質
- d. 耐朽性、着炎性、注入抵抗等の木材保存上の特性
- e. 素材および単板としての接着性
- f. 素材加工および単板製造のための被削性、切削法（ロータリー切削、プレーナー切削を含む）
- g. 円鋸および帯鋸による鋸断性、鋸断法
- h. 素材および単板としての乾燥性、乾燥法
- i. 合板製造条件と製品の材質、塗装性
- j. 必要に応じ化学的性質、その他

以上のような試験項目は、重要な樹種についてはすべて実施するが、さもない場合には適宜省略される。したがって、原木量も 1 樹種丸太 1 本を対象とする規模から 6～7 本まで用いることがある。

木材部長 上 村 武